

# インドネシア人技能実習生の動機 移住インフラの拡大に着目

WAODE HANIFAH ISTIQOMAH  
ソシエタス総合研究所橋本財団



## 発表者の紹介

- インドネシア出身。
- 学士  
インドネシア大学 人文学部 日本学科卒。
- 修士・博士過程  
一橋大学大学院 社会学研究科  
国際社会学・移住労働者 インドネシア人技能実習生の経験に着目

地域日本語教室にボランティアとして参加。

→コロナ禍で対面授業が不可能となり、オンライン教室に移行して現在も活動中。

RUMI-Jepang（在日インドネシア人の家）のメンバーとして、主にSNSを通じて日本におけるインドネシア人移住労働者の権利の促進やアドボカシーに関わっている。

2023年10月より、博士課程の研究を続ける傍ら、橋本財団ソシエタス総合研究所の研究員として勤務している。

## 本日の発表

### Outline of Presentation

#### □移住インフラ

インドネシアー日本に拡大する移住インフラ

#### □ジェンダー化されたインドネシア人移住労働者

#### □在留インドネシア人ー技能実習生の位置付け

#### □技能実習生として日本をめざすインドネシア人の動機の多様化

→移住インフラの拡大の影響に着目

3

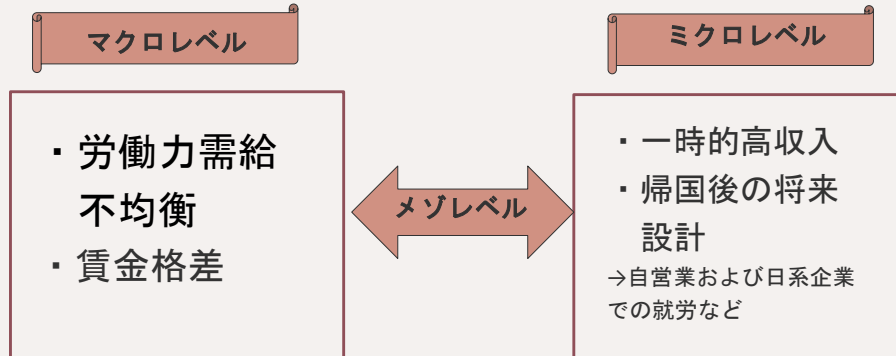
「（日本）考えたことはないが叔母に勧められた。ここで先に勉強している親戚もいるのでOK出した。（中略）叔母に日本で働いたほうがよいと言われた。プロセスが難しくても、結果（給料）がわかるから。ここだと、仕事したことがるし、叔母と一緒に住んで、彼女はわたしがどこで仕事しているのかわかったし、まだ成果がないもわかっている。だから日本に行くことを勧めた。（中略）職種に関してはまだ悩んでいる。介護が不安だ。お年寄りをお世話する仕事だから。（中略）わたしが気が短いからすぐ（利用者に）怒るかも。（中略）韓国には働きたいんだが、どうやって行けるのがわからない。（中略）Tik-tokをスクロールしたときに、LPKまたLPK（の投稿）が多く、（韓国ではなく）日本やほかの国の情報ばかりだった。そのとき、コメント欄をみて、費用が高くてわたしには無理だと思っていた。自分にも自信がないし。でも、ここで数ヶ月間勉強して、そのことを思い出したことがある。今わたしが社（日本語養成校）にいるんだ。笑」

Wi・西ジャワ州に拠点とする日本語養成校で特定技能の候補者として勉強中

2023年12月7日インタビュー

4

## 日本をめざすインドネシア人々の移動の要因



なぜ「今」日本をめざすインドネシア人が急増しているのが説明できない

→マクロとミクロをつなぐメソレベルの要因や仕組みに注目する必要がある（樋口2002）

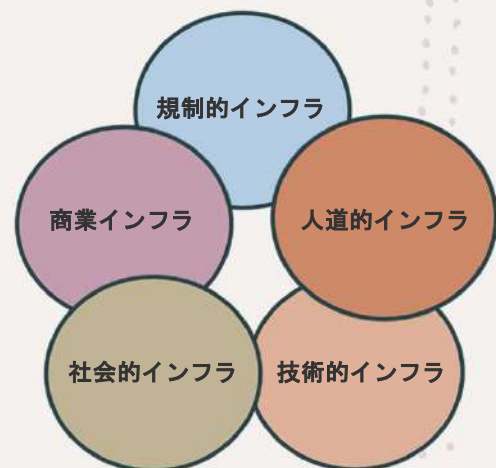
しかし、送り出し国に注目している研究テーマが主に法制度や送り出し機関の実態に焦点をあて、移住先としての日本の位置付けや移動する個人の意思決定を無視する傾向にある（是川2022）

5

## 移住インフラストラクチャー Migration Infrastructure

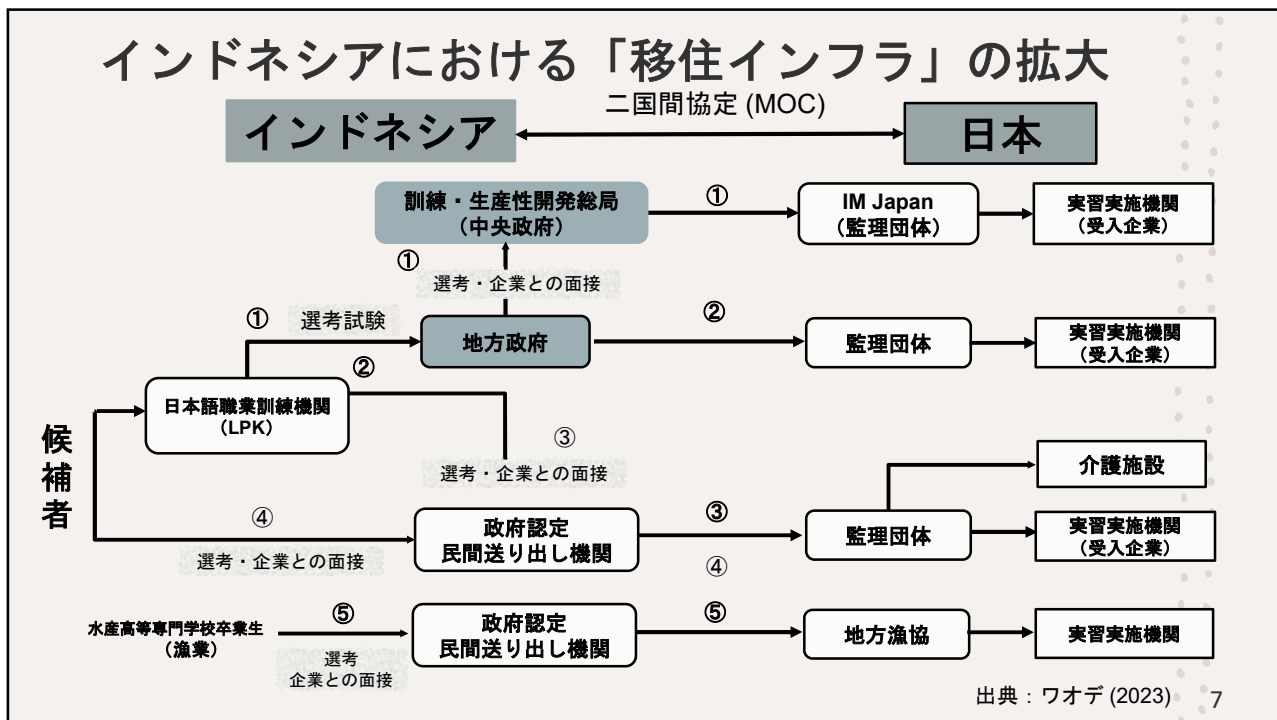
- 仲介業者などの「商業インフラ」
- 移住に関わる手続きや規定、または国家機構からなる「規制的インフラ」
- 通信技術や交通手段などによる「技術的インフラ」
- NGOや市民社会などによる「人道的インフラ」
- 移民ネットワークなどの「社会的インフラ」

各側面が相互に作用し合いながら、移住現象を促進させ、一方では行き先や移住できる期間、就労できる職種を限定するなどの条件付け  
(Xiang and Lindquist 2014)



### 移住インフラ

6



# ジェンダー化された インドネシア人移住労働者

Gendered Mobility : Overview of Indonesian Migrant Workers

## インドネシアにおける移住労働者送り出しの歴史的経緯

### Historical Background of Indonesian Migrant Worker

- スハルト政権下の第3次国家開発計画  
→ 10万人の移住労働者送り出しの目標
- 80年代における「移動の女性化」

	女性 Female	男性 Male	合計 Total
1969-74	*	*	5,624
1974-79	3,817	12,235	16,052
1979-84	55,000	41,410	96,410
1984-89	198,735	93,527	292,262
1989-94	442,310	208,962	651,272
1994-98	503,980	310,372	814,352
1999-2004	1,714,052	598,885	2,312,937
2005-2009	2,436,953	687,410	3,124,363
2010-2015	1,346,756	703,798	2,050,554
2015-2020	810,745	359,971	1,170,716

出典：平野 (2013) pg. 95, およびBNP2TKI・BP2MIのホームページより作成

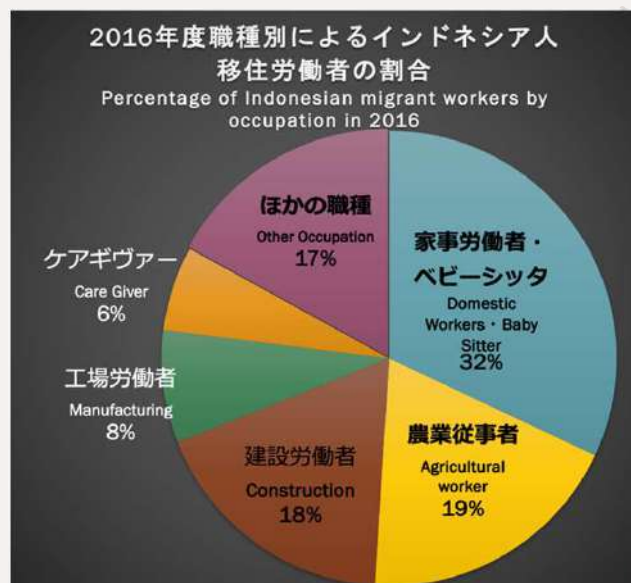
9

## インドネシア人移住労働者の概要

### Overview of Indonesian Migrant Workers

- 2016年に世界各地に就労しているインドネシア人移住労働者の数は900万人程度（世界銀行）
- ジェンダー化された職種  
→ 女性移住労働者は主に家事労働者やベビーシッターなど従事する

出典：Indonesia's Global Workers Juggling Opportunities & Risks, World Bank, 2017



10

2022年度に派遣されたインドネシア人移住労働者  
Indonesian migrant workers dispatched in 2022  
200.761人

ASIA & AFRIKA 182.861 placements	EUROPE & MIDDLE EAST 16.487	AMERICA & PACIFIC 1.143 placements
--	-----------------------------------	--



上位10の受入国・地域  
Top 10 receiving countries/regions

香港 Hongkong 60.096   29,93%	台湾 Taiwan 53.459   26,63%	マレーシア Malaysia 43.163   21,5%	韓国 South Korea 11.554   5,76%	シンガポール Singapore 6.624   3,30%	ほか Other 8.389   4,18%
日本 Japan 5.832   2,90%	サウジアラビア 4.676   2,33%	イタリア Italy 3.582   1,78%	ポーランド 1.897   0,94%	トルコ Turkey 1.489   0,74%	

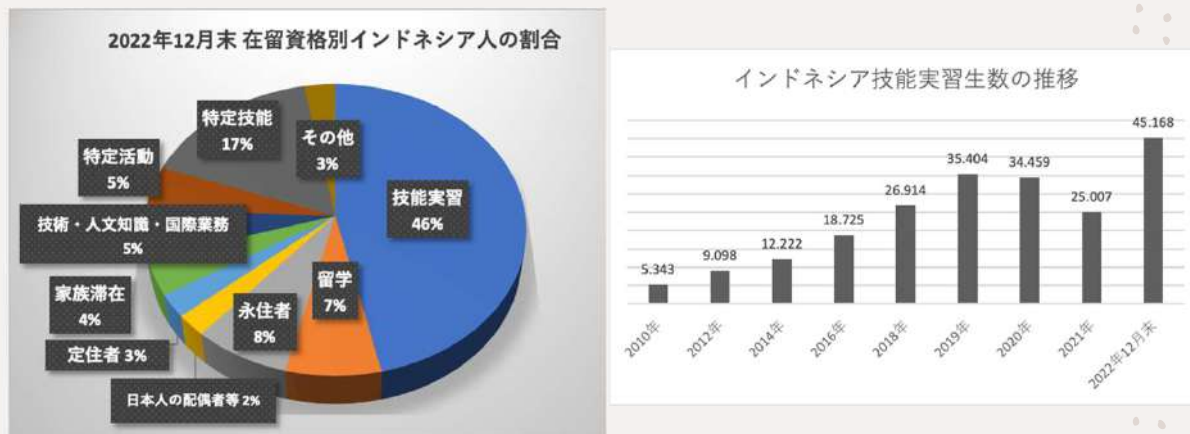
出典：インドネシア移住労働者保護庁 2023

11

# 在留インドネシア人 —技能実習生の位置付け—

## 統計から見る在留インドネシア人

Overview of Indonesian living in Japan



出典：出入国在留管理庁による在留外国人統計から発表者作成

12

## インドネシア人技能実習生の特徴

Characteristic of Indonesian Technical Intern Trainees

- 著しく男性に偏る  
→2022年12月末時点で7割強男性
- 建設および機械・金属関係に加え、食品製造関係・農業などの職種の多様化  
→一方で女性が多く従事する「繊維・衣服関係」が2%にとどまっている
- 主にイスラーム教徒の信者である  
ムスリム



出典：OTITによる2019年技能実習計画認定統計から発表者作成

13

## インドネシアにおける技能実習プログラム・送り出しの特徴

### Characteristic of TITP Dispatchment in Indonesia

#### □ 「人材育成」プログラムとしての期待

→1993年労働省・アイムジャパンの共同事業として開始

→「海外研修を受ける者」としての位置付け・移住労働者に関する保護法から排除

#### □ 労働省による「規制インフラ」と「商業インフラ」の二つの側面

#### □ 商業インフラの拡大

2022年12月時点ではインドネシア全国330社に増加

→女性の募集・職種の拡大

→労働省による選考プロセスが実施される以外の地域に「市場開拓」が行われる。

→技能実習経験者による参入 → 日本語職業訓練校・民間送り出し機関

同胞リクルート （山口 2015）

14

## 日本をめざすインドネシア技能実習生の動機

### 移住インフラ拡大に着目

Motivation for Indonesian to Participate in TITP

Focus on the influences of the expansion of Migration Infrastructure



## 調査の概要

### 調査時期・場所：

2017年から2022年にかけて、日本の静岡県・埼玉県に加え、インドネシアの西ジャワ州のブカシ市とチルボン市で実施

### 調査対象者：

48名の男性と17名の女性の合計65名のインドネシア人技能実習経験者

### 調査方法：

半構造化インタビュー形式

	2005年末までに来日	2010年末までに来日	2015年末までに来日	2020年末までに来日
人数	18名	10名	18名	19名
男女別	男15 女3	男8 女2	男15 女3	男9 女10
送り出し経路	政府：12名 民間：5名	政府：3名 民間：7名	政府：4名 民間：14名	政府：3名 民間：16名
実習中の主な職種	機械金属：4 鋳造：3 建設：2 漁業：2 食品加工：3 など：4	機械金属：3 溶接：3 漁業：1 食品加工：1 など：2	機械金属：10 建設：2 農業：1 食品加工：1 など：4	機械金属：1 鋳造：2 農業：3 介護：3 食品加工：4 プラ形成：3 など：3

出典：発表者作成

## 出稼ぎ志向世代

### 1993年－2000年代前半

#### 一時的な出稼ぎ

技能実習に参加した親戚や友人又は知り合いから当プログラムの具体的な説明を聞くこともなく、高額報酬が得られるという情報を入手したからである。

## 多様な動機への変遷

### 2000年代後半以降

#### 一時的な出稼ぎ

#### 帰国後進路

#### 海外経験などの

→「機会に便乗」（グエン 2013）

## 事例1：帰国後進路への動機

「日系企業での就労」「自営業」又は「日本語教師」といった多様な帰国後進路への期待による来日の決定

「（技能実習に参加したのは）日本に行きたいから。以前は、インドネシアで色々仕事して、最初はタイヤの工場、そのあとS社（民間企業）で2年間、そのあと日系M社で働いた。M社に働いている時に、帰国したばかりの研修生の友達がいる、その人の配属先が下のポジションじゃなかった。（中略）彼がスーパーバイザーになった。彼が僕より後輩なのに、どうしてと疑問に思った。（彼に）聞いてみたら、日本で研修生として働いたことがあり、日本語が少し話せると言われて色々説明してくれた。（中略）彼と同じく（日系企業での就労）を考えてこっちにも募集があると聞いて（申請を）やってみようと思った。」

Oさん、男性、20代、中部ジャワ州クブメン県出身。2015年に技能実習生として来日し、実習先は長野県の重機械加工の工場。2018年に帰国し、現在日系企業で就労している。2017年12月インタビュー

## 事例2：帰国後進路への動機

帰国した技能実習経験者の増加によって技能実習経験者による「社会的インフラ」が強固となり、日本への移動を促す一つの要因となる。

「（元実習生の同僚が）3ヶ月で正社員に昇格した。学歴が同じく高卒なのに、彼が実習を経験したことがあるだけ。だから、日本に行かないといけないと思っている。その時の来日モチベーションはそんな感じだな。一方で、収入も結構割と多く、悪くはないと聞いている。日本でもっと稼ぐのもよいかも。だから自分も日本に行きたくなるようになった。その後ちょうど2年間の契約が切れたので、日本に行くための情報を調べてみた。そのとき、スマラン（市内で労働省によって行われる募集）について情報をゲットした。（それが）日本に行きたいきっかけだ。」

Abさん、男性、30代後半、中部ジャワ州プルバリナガ県出身。2011年に技能実習生として来日し、茨城県の実習先に機械加工作業に従事。2014年に帰国し、現在日系企業で就労している。  
2022年5月インタビュー

## 事例3：各送り出し機関による動機形成

### 「介護」という職種の説明

「（インドネシアに）介護という職種がないので、（候補者が）仕事内容を想像できない。送り出し機関がいかに関係するのが大事である。両親も候補者に（介護の特定技能として）日本に行くのはどうですかと聞いてみた。（技能実習）前のプログラムより給料もよいし、もう一つのプログラム（特定技能）だと、両親がボケて、ときどきイライラし、否定的な発言もするようになった理由がわかるようになる。また、日本での仕事経験があるから、いつか自分の両親を自分で世話することができる。その説明を聞いて、断った人が誰もいない。介護については説明方法だ。」

Edaさん（仮名）、40代後半  
日本語学校養成校などの経営者  
2023年12月インタビュー

## 事例4：各送り出し機関による動機形成

「日本語の習得」や「帰国後の進路の優位性」という広報活動によるインドネシア人の日本への移動を促進。

「近所に新しく送り出し機関ができた。それで、日本の技能実習についてはじめて知った。最初はあまり興味がなく、（費用が）高いし、申し込んだ友達の話をなんとなく聞いただけ。もともと軍人になりたかったけど、両親に反対された。（省略）先の友達に（説明会）に誘われたんだ。色々メリットを聞いて行くことにした。（省略）給料もちろん、日本語も勉強できるし、帰国後に自営業したいならそのお金も貯金もできると思っている。」

Eaさん、20代、ジョグジャカルタ特別州出身。  
2020年に技能実習生として来日  
実習先は茨城県の農業  
2021年6月インタビュー

## 事例5：「安全」「安心」な移住先である日本

インドネシア人では、「安全」「安心」な移住先という日本のイメージもある。  
→インドネシア人移住労働者が経験した暴力など多く報道されるマレーシアやサウジアラビアと異なる日本の位置付け

「両親に言わずに参加（選考プロセス）したから、両親に日本に行くと言えたら、猛反対された。ジャカルタでさえ行ったことないのに。女の子だから、ダメって。お母さんがすぐに大学を探してくれた。ジャカルタの大学で、仕事しながら勉強できると勧められた。祖母も反対した。マレーシアだと妊娠して帰った人もいるから絶対ダメと言われた。（移住先は）日本だと説明すると許してくれた。」

Xさん、女性、20代、中部ジャワ州Cilacap県出身。2016年に技能実習生として来日し、実習先は静岡県に所在する鶏肉加工の工場。2018年に帰国。

## 韓国をめざすインドネシア人の事例

「（技能実習プログラム）について、（高等専門学校に）入学する前にも知っている。最初は（技能実習プログラム）も考えたんだが、学校で韓国語の授業が開催され、韓国に行くことを決めた。（省略）向こうでは実習（pemagang）ではなく、仕事だから。また長く働けるのもよいと思っている。（韓国の場合）延長もできると聞いた。」

Afiさん（仮名）、男性、10代後半  
中部ジャワ州Cirebonの漁業高等専門学校  
2020年3月にインタビュー

- 当高等専門学校から多くの技能実習生が来日
- 特定技能が創設したばかり
- 「実習」という曖昧な立場
- 日本より就労期間  
→送り出しが限定されているので、リスクも高い

## 移住インフラの拡大とインドネシア人技能実習生の動機

インドネシアの現代社会において、日本で職務経験を持つ労働者は、中東諸国、マレーシア、香港などで働くインドネシア人労働者よりも印象が良く、社会的地位の上昇にもつながる (Pudjiastuti, 2005)

- 送り出し機関や当事者がSNSを通じて、技能実習プログラムについての情報を拡散
  - インドネシアに進出した日系企業で「帰国技能実習生」という肩書きを有する者が比較的優遇されるという認識
  - 小規模の自営業・起業への期待
    - ・ ・インドネシアにおけるフレキシブルな雇用システムの導入
    - 2003年労働法による「契約労働者」と「派遣労働者」
    - 「脆弱な立場」を乗り越えるための日本での就労

## 日本にめざすインドネシア人の増加

- 日本への移住労働者の送り出しに関しては、NGOや市民社会からの注目度が比較的に低い。
  - 2020年にHRWGによって送り出しの一時停止が提言された
- 日本をめざすインドネシア人の増加により、日本における労働環境や課題など共有され、NGOや市民社会によって注目する

## 謝辞

2020年以降の調査は、科学研究費助成金 基盤研究（A）19H00607、科学研究費助成金 基盤研究（B）19H01578の助成を受けたものである。

## 参考文献・日本語

- 上林千恵子，2015，『外国人労働者受け入れと日本社会—技能実習制度の展開とジレンマ』東京大学出版会。
- 川上園子，2000，「インドネシア人研修生とアイム・ジャパン」外国人研修生権利ネットワーク編『まやかしの外国人研修制度』現代人分社，73-89。
- ゲエン・ティ・ホアン・サー，2013，「日本の外国人研修制度・技能実習制度とベトナム人研修生」『佛教大学大学院紀要. 社会学研究科篇』41：19-34。
- 是川夕，2022，「国際労働移動ネットワークの中の日本」国立社会保障・人口問題研究所編，『国際労働移動ネットワークの中の日本—誰が日本を目指すのか』日本評論社，1-19。
- 巢内尚子，2019，『奴隷労働—ベトナム人技能実習生の実態』花伝社。
- 樋口直人，2002，「国際移民の組織的基盤 移住システム論の意義と課題」『社会学研究会ソシオロジ』47(2)：55-71
- 平野恵子，2020，「インドネシアにおける家事労働者の権利保護」伊藤るり編著『家事労働の国際社会学—ディーセント・ワークを求めて』人文書院，82-107。
- 山口裕子，2015，「東南アジアにおける労働力移動の社会人類学的研究」Annual Report of The Murata Science Foundation . 431-439

## 参考文献・英語

- Human Rights Working Group, 2020, *Shifting the Paradigm of Indonesia-Japan Labour Migration Cooperation: Voices of Returned Migrant Workers on Pre-Departure Processes under EPA and TITP*, Jakarta: Human Rights Working Group (HRWG) Indonesia
- Killias, Olivia, 2018, *Follow The Maid: Domestic Worker Migration in and from Indonesia*, Copenhagen: NIAS Press
- Nawawi, 2010, "Working in Japan as a Trainee: The reality of Indonesian Trainees Under Japan's Industrial Training and Technical Internship Program." *Jurnal Kependudukan Indonesia*, V(2): 29-52.
- Rustam, M. Reza, 2021, "Oyster Cultivation Betting on Foreign Workers: A Study of Indonesian Workers in Hiroshima." *IZUMI*, 10(1): 131-142.
- Xiang, Biao, and Lindquist, Johan, 2014, "Migration Infrastructure." *International Migration Review*, 48(1): 122-48.
- Widarahesty, Yusy, 2022, "'No Time To Be Sick:' Precarious Cycle of the Indonesian Technical Internship Trainee Program/ TITP from Pre-Departure to Destination Country in Japan." *Journal of International Relations and Area Studies*, 54: 41-62.
- World Bank, 2017, *Indonesia's Global Workers: Juggling Opportunities & Risks*, Jakarta: World Bank.